

## § P Aとは

- ・主に人間に寄生することで宿主を武装化させる謎の生物。
- ・サイズは数mm～数cmまで様々。
- ・外見も虫の幼虫やミミズ、小さな蜘蛛といったように様々。
- ・P A単体の状態では非常に弱く、子供でも簡単に踏み潰せるほど柔らかい。この状態でも最大で24時間程度は生きているが、少しずつ水分を失い、最後にはひからびて塵になってしまう。
- ・宿主の体内に入る手段は、口や耳の穴から侵入する、皮膚を食い破る、傷口に入り込むといった具合にP Aによって様々。
- ・宿主に高い知覚力/身体能力、再生能力、武装化能力を与えるが、これはP Aの生存本能によるものである。
- ・ある遺跡で陶器製の卵が大量に発見されたことがあった。これには1個につき1体冬眠状態のP Aが眠っている。この発見は隠匿され、世間には公表されていない。同時に、大量に発見された卵は全て行方不明になっている。

## § P Aと新たな宿主

- ・P Aは無意識に適正者を選択して寄生する。
- ・間違っただけで適正の無い者に寄生した場合、怪物化して暴走する（詳細は後述）。
- ・初めて寄生した場合、P Aは以下を実行する。
  - 欠損している部位がある場合、その部位を完全に再生する。
  - 内臓等の身体内部の疾患/異常がある場合、異常部位の修復、原因物質/病原菌/毒素等を体外へ強制排出し、健康体に改善する。その際、やけどの跡や刺青も消える。
  - 視力、聴覚等、知覚器官の異常（近眼、乱視、難聴等）がある場合、常人の正常値まで改善する（眼鏡や補聴器が不要となる）。
  - 宿主の記憶と無意識下に自分の特殊能力についての情報を書き込む。これにより宿主はP Aの能力をあたかも元から持っていた能力であるかのように使いこなすことができる。
- ・P Aは脳か脊髄のどこかに寄生しており（部位はP Aによって様々）、部分的に神経系と融合しているため、手術でP Aを摘出することは不可能に近い。無理矢理P Aを摘出した場合、神経系から引きはがす際に宿主を死なせてしまう。

## § 怪物化

適正能力を持たない生き物にP Aが寄生してしまった場合、以下ようになる。

- ・その宿主の肉体は瞬時に怪物化する。ルール上は第三形態になるものとする。
- ・1ステージ終了する毎にSPを1点ずつ失っていく。
- ・SPが0になったら、以後、1ステージ終了する毎にLPを1点ずつ失っていく。この際、全身が少しずつひび割れていく。
- ・LPとSPが0になったら、P A諸共、全身が粉々になって消滅する。
- ・LPとSPが0になる前に、新たなP Aは適正者を探して乗り移ろうとする。
- ・怪物化した宿主からP Aが（別の宿主に移るなどして）出ていった場合、怪物化は解除されるが、そのままショック死する。

## § P Aの増殖

- ・P Aがどうやって増えるのかは、GMが好きに考えてよい。
- ・P A自体、様々なものがあるため、GM毎に異なる解釈をしてもよい。

## § シナリオフック

P A能力者のPC向けのシナリオアイデアを参考までに列挙しておく。

- 1) 投与実験  
ある組織（もしくは金持ち）に誘拐されたPCが、P Aを投与する実験体にされる。
- 2) 奇跡の治療  
医者が現代医学では助けられない末期患者にP Aを投与する。その患者に適正が無ければ怪物化する。
- 3) 新世界の住人  
P A能力者の一部が徒党を組み、組織化した。PCはそれに参加するように勧誘される。
- 4) 女王蜂  
複数の怪物化したP A（と宿主）に同時に襲われる女性が現れる。彼女に寄生したP Aは女王となり、新たなP Aを生み出すことができるという特殊な適正があった。